

沖縄における グローバル教育とは

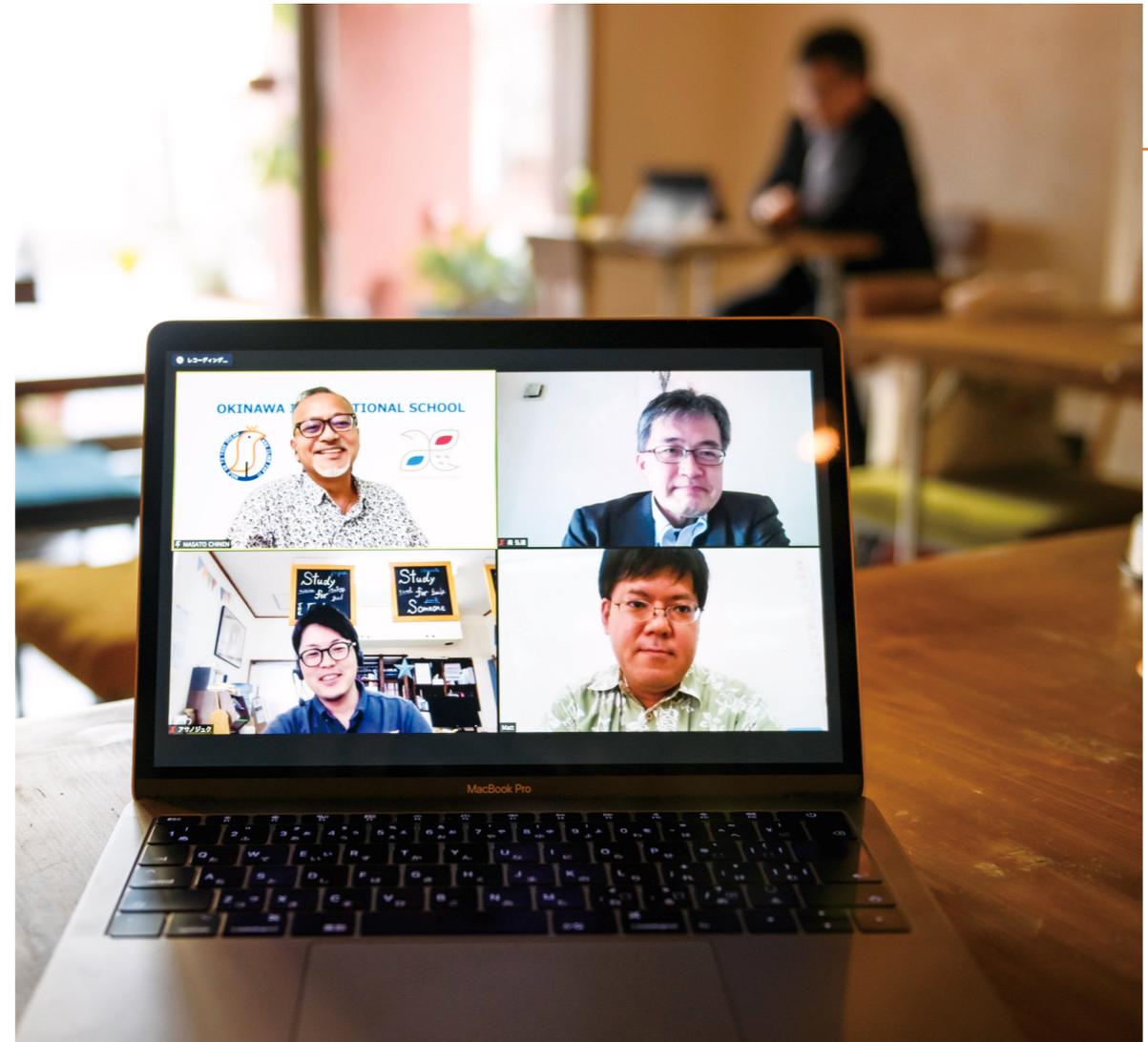
これまで私たちは私立中・高受験、公立高受験、そして大学進学という選択肢で進路を考えていました。しかしここ数年、公立中高一貫が誕生してより中学受験が一般的になりつつあり、さらに幼少期からグローバルな教育が受けられる「インターナショナルスクール」という選択肢も認知されつつあります。インターナショナルスクールは日本在住の外国人の子どもを対象としたオールイングリッシュの学校と思われがちですが、沖縄には地域に根づいて日本語力と英語力の両方を大切に育てながら、世界各国から来た教師からグローバルな教育が受けられるインターナショナルスクールが存在します。それが国際バカロレア (IB) 資格を持ち、2歳~高校3年生まで一貫したグローバル教育が受けられるオキナワインターナショナルスクール (OIS) です。今回は OIS の知念理事長を中心に、塾・学校を通して沖縄の受験・教育に深く関わる4名の先生方とオンラインでグローバル教育について、意見交換をしていただきました。



オキナワインターナショナルスクール
保育・幼稚部《那覇キャンパス》
沖縄県那覇市壺川2-13-26 4F TEL 098-935-1851
小・中学部《南城キャンパス》
沖縄県南城市玉城富里143 TEL 098-948-7711



学校法人PSTアカデミー
沖縄国際学院 高等専修学校
沖縄県南城市玉城富里143番地
TEL 098-948-7740



登壇者



OKINAWA INTERNATIONAL SCHOOL
学校法人 PST アカデミー
理事長/校長 知念 正人
沖縄初、幼・小・中・高 IB (国際バカロレア) 認定一貫校の創設者。



学校法人大妻学院大妻中学高等学校主幹
学校法人電子学園情報経営イノベーション
専門職大学客員教授
森 弘達
昭和薬科大学附属高等学校・中学校教諭、
武蔵野大学附属千代田高等学院副校長等
を歴任。東京学芸大学大学院教育学研究
科にて研究。国際バカロレアディプロマ
プログラム (IBDP) アドミニストレーター。



澤田英語学院
学院長 澤田将人
那覇と西原にて、歴史ある英語専門塾の
学院長を務める。沖縄の生徒の将来を英
検を通して切り拓く



アサノジユク
代表 浅野太輝
浦添と宜野湾で学習塾を運営。那覇国際
高校受験に強く、合格者を毎年多く輩出。
テーマは「一緒に考える塾」



OISとは？



オキナワインターナショナルスクール (以下 OIS) は、その使命として、「人権と平和」「自然環境との共生」「多文化理解」の3つを基軸とした探究教育を力強く推進するために「地域から国際社会を理解する力」「コミュニケーション力」「論理的思考」「数理的分析力」「ICT・AIスキル」「批判的・創造的思考」「高度な倫理観」を各教科間で連携する教育カリキュラムを提供します。お互いの考えや生き方を尊重し、型にはめない教育環境の中、生徒一人ひとりが当たり前前に海外進学を視野に入れていきます。

幼稚部・小学部は国際バカロレアの PYP (初等教育課程) で、3歳からスタート。小学5年生になると集大成としてエキシビジョン (学習発表会) を行います。6年生からは MYP (中等教育過程)。高等部は IBA (国際リベラルアーツ) コース、IBDP (国際バカロレアディプロマ・プログラム) コースと2つのコースに分かれ、多国籍 多文化の教師から一貫した学びを得ることが出来ます。本校では昨年 DP 認定を取得し、沖縄では初、日本では11番目の一貫校となりました。40名学級では出来なくても、少人数のクラスだから出来る事がたくさんあります。

本学にご興味がある方へ



IB教育は、それぞれの地域がそれぞれテーマに沿って探究し、国際的なものにつなげていくため、内容は地域により変わってきます。OISでは、それが3つの使命に現れています。ひとつは戦後沖縄がずっと抱えている問題である「人権と平和」。もうひとつは、「自然環境との共生」。やんばるが世界自然遺産に認定されましたが、自然環境は非常に脆弱なものです。自然環境との調和を学ぶ必要があります。それともう一つは「多文化理解」。琉球は独特の文化や歴史を持っていて、多文化に対する理解を受け入れることは豊かな

経験となります。あくまでバカロレアは、カリキュラムであって、学校そのものではありません。そういったことをしっかり踏まえて教育活動を行うように心がけています。また、OISは、日本人が9割のインターナショナルスクールですので、2歳からご入学しているお子様と、小学校・中学校からOISにご入学するお子様とは必ず英語力に差異が出てしまいます。それに対するサポートをどの様に行い、共通の探究をどう深めるかは先生達が常に向き合っている課題です。もし、英語力で一歩踏み出せないなら、それでも入学して日々頑張っている先輩に話を聞きに来て頂ければと思います。

大妻中学高等学校 における STEAM教育



私は24年間、昭和薬科大学附属高等学校・中学校で教諭・進路指導部主任・高校3年主任等を務めました。現在、東京の学校法人大妻学院大妻中学高等学校で管理職を務めています。来年度から高校で実施される新学習指導要領では、総合的な学習の時間が総合的な探究の時間に変更になります。教科横断的・総合的で主体的・対話的な学びということでIB的な学びが導入されます。探究は、IB校に限らず、全国の高校が対応しなければなりません。探究の学習内容として何を扱うかは、全国の高校で大きな課題となっています。地域課題、学際的な課題、キャリアなど、何を扱うか悩むところです。大妻中学高等学校は、人生100年時代に大学や大学院を卒業してから50年以上社会で活躍する人材の育成を目標にSTEAM教育を推進しています。世界で活躍する研究者やアーティストをお招きし、生徒が対話的に学ぶプログラムを今年度からスタートしました。私はIBの教育を大いに参考にしています。IB校は少数でいい教育を行っている学校が多いので国や都道府県がもっと財的に支援すべきです。

OKINAWA INTERNATIONAL SCHOOL



アサノジユクから見る 中学生の現状とOIS



森先生のお話の中で、「活躍されている方を学校に招いて対話的に学ぶ」とありました。アサノジユクの港川本校では、多くが那覇国際や浦添高校を目指す浦添の公立中学に通う生徒たちを指導していますが、今の中学生、もつという10代全般で所謂「一流」と言われる大人との触れ合いが非常に欠落しているため、今後解決していかなければいけない問題だと感じています。OISさんのHPを拝見しましたが、公立では達することが出来ないレベルのグローバル教育をされていると思いつつも、率直にいうと学費が非常に高額なので富裕層が参加する学校のように感じました。実際には補助等もあると思いますが、学費の問題を超えて来られる方々が、OISさんの理念にどの程度タッチ出来ているのか教えていただけますか。

I B教育の課題



一条校でない私たちはどうしても助成金などの補助が無いので、確かに学費は高額です。しかし確かに高額ではあるのですが、東京など本土の方からIB校として見た時に私達の授業料は非常に安い。そもそも、教育にはお金がかかるものなのに沖縄の私学が安すぎるのです。生徒がOISの理念にどれだけタッチできるかに関しては、先生達のカリキュラムを作るスキルに委ねられています。IB教育は「今社会で何が起きているのか」「社会で起きている問題を解決するために、授業とどのように紐付けするのか」が重要です。残念ながらこれまでの日本の学校では、学校の中の事は分かっていても、社会を知らない先生が多かった。これからの日本の教育で探究型を取り入れたことは、今後日本が乗り越えなければいけない大きな壁になるのではないかと思います。

OISでは、世界各国から英語で教育が出来る一定のレベルを持つ先生を採用していますが、全ての先生が英語圏の出身とは限りません。ユニークなところでは、アフガニスタン、フィリピンやコロンビア、スイスなど。OISに来るまで生徒は英語を勉強するとアメリカなど英語圏に思考が行きがちでしたが、様々なバックグラウンドを持つ先生と日々触れ合うことで思考がヨーロッパから全世界へと広がっています。これはグローバルマインドを育てる上で非常に有効だと思っています。

低年齢の子どもの 英検取得について



将来グローバル社会で自分の力を試すために、まずは英語力をつけてもらう必要がありますね。OISさんの生徒はうちにも何名か通っていただいています。やはり他の公立や私立の生徒と比べて英語力があるように感じます。最近OIS小学部の生徒が英検準1級に合格

とは一致しないという現状があります。その理由のひとつに、内申点という制度があり、ある種学校の先生の顔色を伺いながらという気配がしなくもない。先ほど知念先生から、学校の先生の中には、社会経験が十分でない方もかつてはいらっしゃったという話がありましたが、生徒たちがそういった先生達に違和感を感じているのも事実なのです。そこで「あなたの考え」「世の中の考え」「あなたのお父さんお母さんの考え」「学校の先生の立ち位置」などを進路



指導とともに紐解いています。国教英理社といった全科目の高校入試に向けた指導はもちろんですが、より本質的であり、もつと根本となる部分を一緒に考えることが多いかなと思います。



ありがとうございます。森先生にも聞き取ったのですが、大妻の生徒さんたちはグローバルな教育を求めて入ってきているかと思いますが、現在短期留学などに参加される生徒は増えていきますか。それから、そういったプログラムに参加した生徒がその後、進学などにどう影響したか聞かせてください。

しましたが、学校で英検やTOEFLなどを推奨しているのでしょうか。またこちらでも幼稚園生や小学校低学年のお子さんが高校レベルの英検を受験している、文法の説明が必要な機会がありますが、各個人の力の



違いをどのように埋めているのかとても興味があります。

英検からTOEFLへ



私たちは昨年英検からTOEFLにシフトしました。その理由は高等部が出来たからです。DPPでTOEFLが必要になってくるので一貫性を持たせるためにTOEFLブライマリー、TOEFLジュニアを取り入れるようになりました。しかし英検に関しては変わらず推奨していて、個人で受けてもらっています。英検の良いところは、やはり合格に対するモチベーションが保てることです。OISでは英語環境での教育が進んでいるため、聞く力と話す力が先行して伸びます。ですから、元々英検の準2級から2級レベルでしたら小学4〜6年生で一気合格するレベルに到達していました。しかし準1級となると、足踏み状態に。これはインターナショナルスクールに共通する問題で、日本語力が伸びていないことが原因でした。そこで5年程前にこれではいけないと日本語の授業を「文学」と「論理構成」に分け、論理構成を

グローバル化、 デジタル化が教育を変え、 未来を創造する



大妻中学高等学校ではグローバル教育部がグローバル教育を推進しています。その一つとして模擬国連の取り組みがあります。2年連続で全国高校模擬国連大会の日本代表としてニューヨークで開催される世界大会に出場しました。日本代表として、灘校や渋谷教育学園など日本のトップ校がひしめいています。昭和薬科大学附属高等学校に勤務していた時にも模擬国連に参加し、全国大会に出場することができました。現在、コロナ禍で模擬国連大会はオンラインで開催されています。他にも大妻ではオンラインで海外の大学生と高校生との交流も行っています。昭和薬科大学附属高等学校で指導した卒業生もロンドンカレッジやオックスフォード大学大学院をはじめとする欧米やアジアの一流大学に進学しました。これからはグローバル化とデジタル化が世界を牽引し、教育を変え、新たな教育が未来を創造すると考えています。



ぜひ模擬国連、私達も参加させてください。今日は皆さんから貴重なご意見を聞けてよかったです。学校や塾の方々の考え方から今の沖縄の教育の状況を知ることが出来ました。そして森先生は、沖縄で24年間教育に携わり、現在は東京で大妻中学・高校をグローバル化する再チャレンジをされているとのこと。非常に難しく、やりがいのあることではないかと思えます。今後皆様も皆様にぜひ色々なところでお話を聞かせていただきながら沖縄の教育を「グローバル」という一つのキーワードで伸ばしていけたらと思います。

アサノジユクの 「一緒に考える」とは



非常に高く「一緒に考える」を解釈頂いてありがたいですが、2014年に塾を開業するに当たり考えたキャッチコピーで、残念ながらSTEAM教育には関連していません。今、何を生徒たちと一緒に考えているかという、勉強する意義や進学の意義など。現在の公立中学やその先の高校進学を包む環境の中、生徒たちが自分の想い一つで向かう先が、必ずしも大人が目指す先

